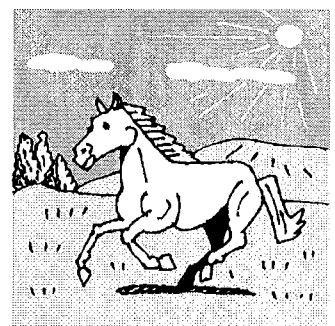


まっ心! 倫理号です。穏やかな天気となり、積った雪も溶け僅か残っている程度かな? 我々会員は下記の十項目をある中子時に対応すべく学ばねばならない!

一月のテーマ 一年のはじめに



え・小島サエキチ

日々の行動を支える十の要諦

新

しい年が明けてから、十日あまりが過ぎました。お正月中に養った鋭気をもって、今年一年を充実したものとすべく、よいスタートをきりたいものです。

今週は、日々物事に取り組んでいく上での心得や姿勢について、心身両面から、ポイントをお伝えします。

倫理法人会の『幹部研修テキストVI』に、「倫理実践の要諦」という章があります。ここでは実践の要諦、すなわち日々行動する上での心得として、次の十項目を紹介しています。

- (一) 即行 気づくと同時に行な
- (二) 純粹 そのままである。何も考えぬ。付加せぬ。
- (三) 直行 まっすぐにこなう。
- (四) 結果を考えぬ 予想せぬ。
- (五) 緊張 実践は、ゆるんではだめである。
- (六) 一気呵成 一息にやり上げる。
- (七) おしとおす 一歩も退かず押していく。
- (八) 反復不退 出来上がるまでつづける。
- (九) 不悲不喜 わるかつたと悲しみに浸り過ぎない。よくできたからといって喜び

過ぎて油断しない。(十) 慎終 後始末をよくする。

これらは、内容的に三つのグループに分けることができます。(一)と(二)は、物事を始めるに際しての心がけです。たとえば、「今年はずいとお礼状を出すぞ」と決意したとしましょう。しかし、たとえ気づいても、すぐに行動しなければ(礼状を出さなければ)、気づきはやがて雑念となり、果ててしまいます。グズグズしていたり、面倒がつて先送りになっていると、別の用件が生じて、せっかくな気がしたこと、決意したことが無駄になってしまいます。

また、相手からのアドバイスや助言などをそのまま聞き、実行する姿勢(純粹)も大切です。(それが何の得になる?)などとゴチャゴチャ思い悩んでいたり、できない理由ばかり考えていては、実行を通して味わえる喜びを体感することはできないでしょう。

(三)から(八)は、その物事を行なっていく際の心得です。行動をし始めたなら、断固として継続すること。(九)と(十)は、物事を締めくくる際のポイントです。行動には失敗がつきもの。順調に成功することもあれば、うまく行かずに頓挫する場合もあります。成功したからといって樂觀的になり過ぎたり、失敗したからといって悲観し過ぎない。「不悲不喜」とは、そういう意味です。そして、どのような時もしっかりとした「後始末」をやり遂げること。物事にはつきりとした終止符を打ち、次に備えるのが慎終です。

こと。(人)にどう思われているか? などと思いつくことなく、目の前の物事に集中して取り組む。これが「直行」であり、「結果を考へぬ」です。この時、大切になってくるのが、(五)から(八)までの姿勢です。これらは「始めたことには必ずやり遂げる」という強い意志の表われです。

(九)と(十)は、物事を締めくくる際のポイントです。行動には失敗がつきもの。順調に成功することもあれば、うまく行かずに頓挫する場合もあります。成功したからといって樂觀的になり過ぎたり、失敗したからといって悲観し過ぎない。「不悲不喜」とは、そういう意味です。そして、どのような時もしっかりとした「後始末」をやり遂げること。物事にはつきりとした終止符を打ち、次に備えるのが慎終です。

これら十項目は、新年に立てた決意や目標を実現させるための支えとなるでしょう。今年も、昨年よりも一歩も二歩も成長する自分になろうではありませんか。